



マーチィ's ROOM

マーチィに訊け！ まちづくりライブラリーからおすすめの一冊 県都市計画課で貸し出しできます！

2030-2040年 日本の土地と住宅 著 野澤千絵(中央公論新社)



人口減少と高齢化が急速に進む日本では、2030年以降、土地と住宅をめぐる課題が一層深刻化すると指摘されています。野澤千絵氏の『2030-2040年 日本の土地と住宅』は、これから10~20年にかけて各自治体が向き合うべき都市課題を、実証データと現場の視点から整理した一冊です。

適切な居住誘導と土地利用の再編は、将来の財政負担を左右する重要要素であり、市町村が長期的な視点でまちの形を整える必要があります。また、既存ストックの活用や住み替え支援、地域コミュニティの再生といった「人」に焦点を当てた政策が、持続可能な都市をつくる鍵になると説きます。

本書は、都市計画部局のみならず、福祉・防災・財政など横断的な施策を担う職員にとっても、次の10年を考える指針となる内容です。各自治体が自地域の将来像を具体的に描くうえで、ぜひ参考にさせていただきたい一冊です。

今号の
おすすめ
ライブラリーは
こちら！



マーチィの掲示板 県・市町村人事交流職員研修を終えて

田子 雅貴 (吉岡町→群馬県県土整備部都市計画課都市計画係)

群馬県都市計画課都市計画係に市町村実務研修職員として令和7年4月から派遣され、あっという間に1年が過ぎました。実務研修当初は、環境の変化に加え、実務研修前の所属が都市計画とは程遠い福祉関係の部署だったこともあり、都市計画の「都」の字も分からない状態で、不安ばかり抱えていました。しかし、県都市計画課の皆様をはじめ、市町村のご担当者様や関わってくださった皆様に支えていただき、なんとかこの1年を乗り切ることができました。皆様には心より感謝申し上げます。

市町村実務研修では、県職員として、市町村職員とはまた異なる視点・立場から物事に向き合う機会をいただき、町で業務をしているだけでは得られない貴重な経験を数多くさせていただきました。また、日々の業務を通じて、県と市町村で相互に連携することの重要性を強く感じました。

市町村実務研修職員としての期間は3月末で終了となりましたが、町に戻っても、研修で学んだことを活かし、多角的な視点を意識しながら業務に向き合うとともに、県や近隣市町村との連携を密にとっていきたいと考えています。今後とも皆様のお力をお借りすることがあるかと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

高野 修平 (みどり市→群馬県県土整備部都市計画課企画推進係)

みどり市から県都市計画課へ派遣され、気がつけばあっという間の2年間でした。この間、さまざまな業務でお世話になりました市町村職員の皆さま、そして民間事業者の皆さまには、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

「おっ！まっちい〜」では、取材や執筆に加え、12年ぶりとなるデザイン改定にも関わらせていただきました。まさか自分が誌面の“模様替え”に参加できるとは思っておらず、個人的にもとても楽しい経験となりました。

本誌を通じて、都市計画やまちづくりについて、多くのお話を伺い、現場の熱量や悩み、工夫などを直接感じることができました。この経験や学び、そしてつながりを、派遣元の市町村に戻ってから大切に、しっかり業務に活かしていきたいと思えます。

今度は、もしかすると本誌に執筆者としてひょっこり登場することがあるかもしれません。そのときは、どうぞ温かく読み流していただければ嬉しいです。

2年間という短いようで濃い時間でしたが、皆さまのおかげで本当に充実した派遣期間となりました。改めて、ありがとうございました。

